



一九七七年十二月三日第三種郵便部認可
二〇一八年二月十一日発行(毎月十八回)・二・三・五・六・七の日発行
SSKP 通巻第六八一六号

ホームページ <http://www.max.hi-ho.ne.jp/yawaragi/>
メールアドレス yawaragi@max.hi-ho.ne.jp



昨年の赤い羽根募金には支部長と小暮事務局長が参加。マルタちゃんもご協力。

年頭所感 2	第3回 行こう～よ！いちご狩り 5～6
支部長 赤城 喜久代	一般公開研修会 7～8
神奈川県支部 横浜港ランチクルーズ ... 3	空飛ぶ車いすから見た世界のバリアフリー事情
マリーニルージュ号に乗って	西湘協会 相馬 美枝
東京都支部 祐成 常久	忘年会に参加して 8
○川崎協会研修会 4	川崎協会 田辺 昌美
「脊髄損傷者を取り巻く就労状況について」	感謝状授与される 9
に参加して	編集後記 9
東京都支部 三井 智哉	

年頭所感

支部長 赤城 喜久代

あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、どのような新年をお迎えでしょうか。

関東地方は元旦から快晴に恵まれ澄み切った青空と、夜には素晴らしい満月が望まれ、最高のお正月となりました。

さて、一昨年4月には障害者差別解消法が施行され、その効果が徐々に現れてきているところですが、今年も4月に障害者総合支援法と、介護保険の見直しが予定されています。

少し詳しく述べますと、重度訪問介護の入院時の病室での利用ができるようになります。

それと、65歳になる障害者の介護保険自己負担分の無料化等が予定さ

れています。

例えば、今まで重度訪問介護を普段使っている障害者が病気やけがなどで入院した時に、重度訪問介護ヘルパーを病院内で使えるようになります。

4月の制度開始時には区分6限定でスタートしますが、24時間利用者なら24時間使えるようになります。

区分に関しては、制度開始から3年後に報酬改定の見直しが行われますので、その時に区分の見直しがあるかもしれません。

一方、介護保険ですが65歳に達する障害者（もともと障害ヘルパーなどを使っていた障害者）が介護保険対象になると、1割負担が発生します。この1割負担分を障害者施策で負担する仕組みが4月から始まります。対象は低所得者のみです。

その他、補装具費の支給範囲の拡大（貸与の追加）等があります。われわれ重度障害者は65歳になったからといって、レンタル車いすでは身動きが取れない人が大部分だと思います。介護保険対象者になると、介

護保険のレンタルを使うように市町村に強制され、中には体に合わないレンタル車いすを使っている人もいます。

国の通知などでは重度障害者の場合は、オーダーメイドの補装具が許されていますが、一部の市町村ではその通りの運用がなされていないところがあります。

会員の方たちには自分の権利をしっかり主張し、体に合わない車いすを作ることだけは決してしないようにしてください。

今年も支部行事としましては、3月のいちご狩りをはじめ、いろいろな楽しい事を企画しながら、会員が集える場づくりを行っていききたいと思っています。

皆様にとりまして、本年が素晴らしい1年になることを祈念いたしますとともに、支部役員一同、今年もよろしくお願いいたします。



神奈川県支部

横浜港ランチクルーズ

マリーナクルージュ号
に乗って

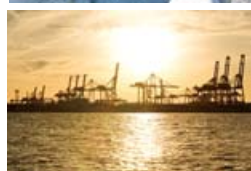
東京都支部 祐成 常久

フランス料理の食事をしながら、横浜港の景観を楽しみ横浜港の開港当時の話や現在の風光明媚を満喫し、時間の過ぎるのも忘れたほど、素敵な時間が過ごせました。

支部からの援助もあり、会費が安く誰でも参加できる配慮がされ、東京都支部3名、長野県支部1名、栃木県支部1名、ただし鉄道の遅延があり、時間に間に合わなかったのが「残念」。総勢約28名で、客室も広くゆったりした気分の中、出港。食事を取りながらの約90分で、調和のとれた企画を感じました。

私が30代の時に、サザンオールスターズの「LOVE AFFAIR〜秘密のデパート〜」の歌にマリーナクルージュが出てきます。この歌は1988年の「スウィートシーズン」というドラマの主題歌にも使われました。

横浜のシンボルであり、横浜と首都圏を結ぶ重要な役割を果たしているベ



55m、橋げたから海面までの高さは約55m。船から見上げるベイブリッジは迫力満点です。

本牧埠頭とガントリークレーン、横浜港最大のコンテナターミナル。皆様が普段使う日用品から食料・衣料・家具などあらゆる生活物資がコンテナに詰められ、世界中から運ばれています。埠頭全体の面積は265・1ヘクタールあります。写真の赤い大きなクレーンはガントリークレーンといい、コンテナ積み下ろし専用のクレーンで、高さは約100mもあります。

乗り降りする栈橋が急なので、クルーの男性達の協力の下、安全に乗り降りできた事に感謝し、またほかの乗客の皆様を待たせているのですが、何一つ問題もなく過ごせた事にも心からお礼を述べたいと思います。

次回は、神奈川県支部の方々ともっと気楽に、話をしながら、食事を楽しみたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

イブリッ
ジは平成
元年に完
成。全長
860
m、高さ
175

●豆知識〇「横浜港の歴史」

（参考…横浜港の歴史）

1853年7月（嘉永6年6月）、アメリカのペリー提督が4隻の船を率いて浦賀に来航し、日本の鎖国政策を変えさせ、港を開くように強く要求しました。それまでの日本は、オランダなどのごく一部の国のほかは、長い間外国との交流をしませんでしたが、次の年の1854年3月（安政元年3月）、幕府は「日米和親条約（神奈川条約）」を結び、その後、1858年7月（安政5年6月）、「日米修好通商条約」をはじめ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと条約を結んで、これらの国々との交流を始めました。そして、1859年7月1日（安政6年6月2日）、神奈川、長崎、箱館（函館）を開港し外国との自由貿易を許可したのです。日米修好通商条約の交渉のときにアメリカ総領事ハリスがのぞんだ開港地の中には、神奈川や横浜の名はありませんでしたが、幕府がハリスに、神奈川の開港を提案したのは、日米和親条約ゆかりの地であり、さらに「江戸に一番近い港で、江戸が外国貿易にむけて開かれるときには必ず重要な場所になるにちがいない」ということで、ハリスはこの提案を受け入れたと考えられます。

○川崎協会研修会

「脊髄損傷者を取り巻く
就労状況について」に参加して

東京都支部 三井 智哉

11月25日土曜日に川崎市国際交流センターで行われた研修会に参加させていただきました。研修のタイトルは「脊髄損傷者を取り巻く就労状況について」というもので、講師に神奈川リハビリテーション病院職能科の科長松元 健氏と職業指導員の植西祐香里氏をお招きして行われました。

私自身、東京都支部所属ではありませんが、脊髄損傷者の就労は難しいと言われるのはなぜなのだろうというところに非常に興味があり、参加させていただきました。

私がお話の中で特に印象的だと感じたのは就労に至るまでの準備の中で専門的な能力を身につける事よりも自身の生活のリズムを安定させることが優先されるという部分でした。私と思う障がい者の就労が難しいといわれる大きな要因とは、制度によ

るものだったり、障がい者の雇用について積極的でない企業があったりするものだと考えていました。もちろんそれらが要因の一つであることはお話の中で理解しました。しかし日々の生活の中にある健康管理、基礎体力の向上、交通機関の使用といったところに就労への大きな鍵が潜んでいるとは思いませんでした。

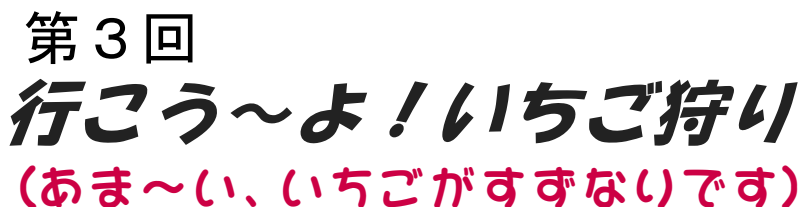
私自身就労へ至るまで苦労した思い出があります。面接を受け、落ちる度に重度の障がい者が働くのは無理なのかな...と思うこともありましたが、日常生活を改善し、企業にもっとアピールできることもあったのかなと思いました。

また、神奈川リハビリテーション病院の職能科では病院に通うことが難しい場合、在宅での訓練に対する支援をしている事を知り、その延長線上に支援のみならず、通えないの

なら在宅で働く「テレワーク」という道筋もあるという事を教えていただきました。もはや通勤できないから働けないという時代ではなくなりつつあるのかもしれない。また、私のイメージでは多くの就労移行のサービスはいわゆる通所型で通所出来ることを前提にサービスの利用という形が多く、神奈川リハビリテーション病院の職能科のように在宅にいても訓練が受けられるような支援や在宅就労への支援を行っているという部分に貴重さを感じました。

今回初めて他支部の研修会に参加させていただきましたが、とても貴重なお話を聞かせていただくことができました。また参加できることが研修などありましたら是非参加したいと思います。





尚、いちご狩りは30分間となっていますので、そのあと移動して希望者のみ、フォーラム246で昼食会にしたいと思います。

料金：1,800円 (30分)



 申し込み

ご住所

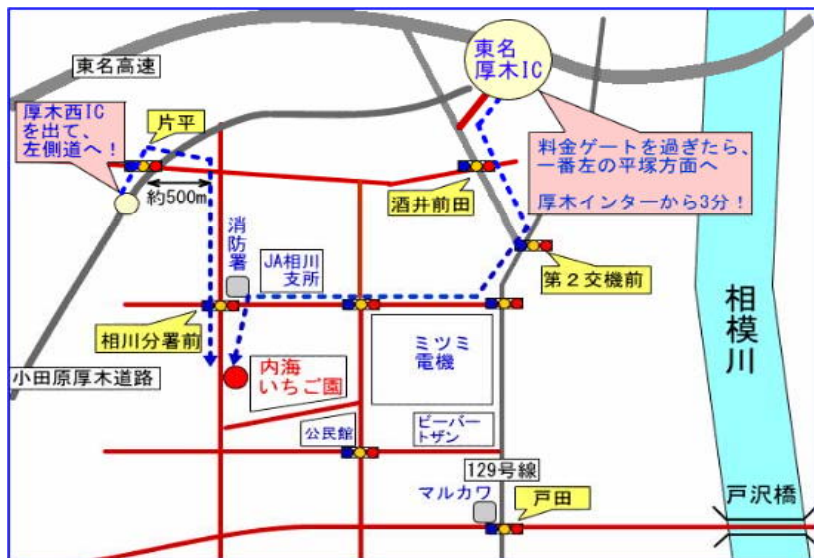
いちご狩り	参加	名	付き添い	有	名
-------	----	---	------	---	---

昼食会 参加 名 付き添い 有 名

■内海いちご園

神奈川県厚木市下津古久696

TEL 046-228-6967

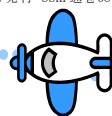


- お車でお越しの場合
東名厚木インターから車で3分
- 電車・タクシーでお越しの場合
小田急線 愛甲石田駅下車 タクシーで5分
- 電車・バスでお越しの場合
小田急線 本厚木駅下車 南口から神奈中バス
平53、平54（平塚駅北口行き）で約15分、
「相川中学校前」で下車 ⇒ 徒歩10分



バス停からの道順





一般公開研修会

空飛ぶ車いすから見た 世界のバリアフリー事情



講師 木島 英登 氏

報告 西湘協会 相馬 美枝

12月10日に開催された2017年を締めくくる研修会は、講師に木島英登さんをお迎えして「空飛ぶ車いすから見た世界のバリアフリー事情」をして頂きました。

大阪在住の木島さんは、今までに車いすで約百六十の国を訪れ、海外でのバリアフリー状況を、著書（「空飛ぶ車椅子」など四冊）で発信すると共に、講演会や社員研修の講師、内外の会議に出席等、幅広く活躍されています。

木島さんの海外への出発点は、大学一年の夏休み、一か月間のアメリカ滞在でした。この時、『車いすであることを忘れてしまう』貴重な体験をされました。交通機関やお店などの環境が整っていた事もありますが、人々が障害者ではなく個人として接してくれる事を実感したそうです。また、アメリカ行きを相談した大学の担当窓口の方が『車いすだから無理』などと言わず、親身に考えてくれたのも大きな味方でした。この経験がなかったら、その後の人生は、変わっていたかも知れません。人生の分かれ道が、小さなきっかけで始まるという事を感じるお話でした。

旅行は、一人旅が多く、ほとんど現地の交通機関を利用しての移動になります。でも、訪れた国のバリアフリー環境が整っているとは限りません。困った事や、ちょっと怖い経験もありましたが、現地の方が助けてくれる場合が多かったそうです。それも旅の楽しさの一つですね。海外のホテルのバスルームの様子や風景など、画像を使って、とてもわかりやすく説明して頂きました。

さて、もう一つの興味深いお話は、夏に奄美大島空港で起こった『バニラエア航空・歩けないことを理由に搭乗拒否』された出来事です。その後、航空会社からは、すぐに改善を約束する連絡がありました。ところが、この件が新聞やテレビで報道されたため、メールやメッセージが殺到し、『炎上』する事態に。応援もあったのですが、非難や誹謗中傷の方が多かったようです。もちろん木島さんは、この出来事の後も、元気に旅に出かけて行き、活動されています。寄せられたメッセージは、非難も含め、貴重な意見として大切にしたいとの事です。車いすで公共交



通機関を利用することが難しかった時代を知っている私も、徐々にバリアフリー化が進んでいるこの状況を逆行させないために、しっかりと考え、行動していかなければ...と思います。

しばらく旅から遠ざかっていた私ですが「また、出かけようかな」という気持ちになりました。楽しい3時間を、ありがとうございました。

忘年会に

参加して

川崎協会

田辺 昌美

12月10日曜日、フォーラム246にて、全脊連神奈川県支部の役員会、忘年会がありました。

私は、今回は電車で参加しました。ボランティアさんの運転で、中原区社協の福祉車両を借りるのですが、老朽化で車いすの固定ベルトが上手く止まらず、前後に車いすが傾くためやめました。

朝8時に自宅を出発、武蔵中原駅までキャブで、後は電車で登戸駅まで。そこから、伊勢原駅と予定していましたが、40分待たされるので相模大野で乗り換えしました。伊勢原駅

まで2時間かかりましたが、無事に10時にフォーラムに到着しました。ヘルパーさんと一緒ではありましたが、正直不安でドキドキしました。JRの女性駅員は、態度がいまいち悪かったでしょうか。でもステップは、乗り口まで持ってきてはくれました。

無事についてからセミナーがあり、5時から忘年会がありました。今回私のテーブル席で、元看護師さんのお母様とお話ができたり、いつもならカラオケを歌うところなのですが、話に夢中になり、食事も美味しくてこの日は、ほとんど歌いませんでした。でも、楽しいひとときでした。

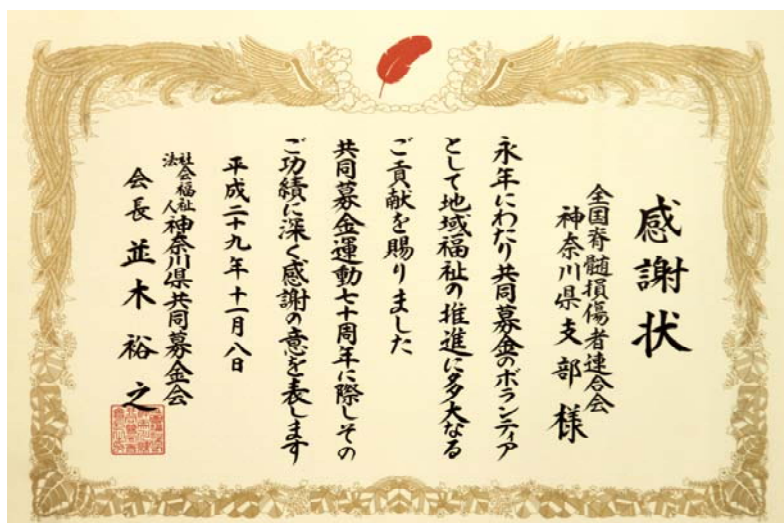
2018年も元気で、皆さんと一緒に、活動したいと、思いました。今年も、何卒どうか宜しくお願いいたします。



感謝状

授与される

神奈川県共同募金会より



赤い羽根共同募金運動が日本で誕生して70年。戦禍の福祉事業を復興させようとGHQの下、厚生省の指導で募金活動が始まった。欧米で善意や勇気のシンボルとされた赤い羽根を胸にさすようになった。

全脊連神奈川県支部もこの運動に長く携わってきた。特に前事務局長の故妻屋氏は、毎年十月一日初日には、横浜駅頭で募金活動に必ず参加していた。障害があろうと地域で普通に生活をしようとの強い思いを実現するためにも続けていた。

この思いが今回認められ、感謝状となったのであろう。その後は、支部長はじめ各位がそれぞれの地区で参加を継続している。

共同募金への協力とともに、障害当事者活動の一環として、今後も続けていきたいものです。



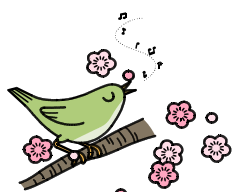
編集後記

ここ数年、体重がジワジワと増加していて、リフターに吊り下がると体が重い……。今のところ内臓には問題がないけれど、介護を受ける身としては改善の余地ありと実感しました。

そこで、急激なダイエットは褥瘡の原因になるから避けつつ、以前に挑戦して効果のあったダイエット方法を試しますが、効果が出ない。「なんでだろう？」と友人に話すと、原因は「お年頃」のようで、同年代以上の女性は口を揃えて「代謝が下がってくるからね」と。

そういえば、『昔より痩せにくくなったという方におすすり』なんて漢方の肥満症改善薬のCMが流れていたっけ。なんだ皆同じなのねと少々安心しつつも、せめて洋服のサイズは上げないように頑張ろう！と、自分に言い聞かせた年頭です。

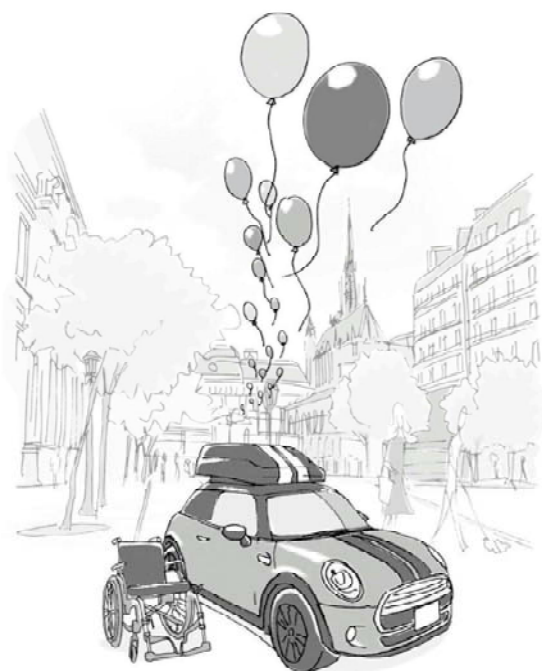
(S・K)



アイのある技術で、ユニバーサル社会に貢献します。

ニッサン自動車工業は2016年4月より、

"株式会社ミクニ ライフ&オート"と社名を変更し、新たなスタートを切りました。



Happy car life



手でアクセル&ブレーキ

手動運転装置

APドライブ

車いすを屋根上へ収納

車いす収納装置

オートボックス



車いすに乗ったまま
スムーズ乗降

リモコン式

乗降用リフト



車いすの積み降ろしを
サポート

車いす収納装置

ウィンチェア



福祉車両総合メーカー



株式会社 **ミクニライフ&オート**

〒349-1145 埼玉県加須市間口456-1

TEL.0480-72-7221

FAX.0480-72-7223

<http://www.nissin-apd.co.jp/>

編集人

相模原市中央区矢部新町一〇九一〇一
「和」編集部 赤城 喜久代

発行人

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷三一一一十七

ヴェルドウーラ祖師谷102

定価 三〇〇円